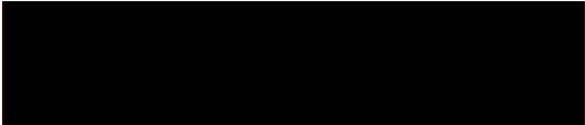


中学校第1学年 国語科学習指導案

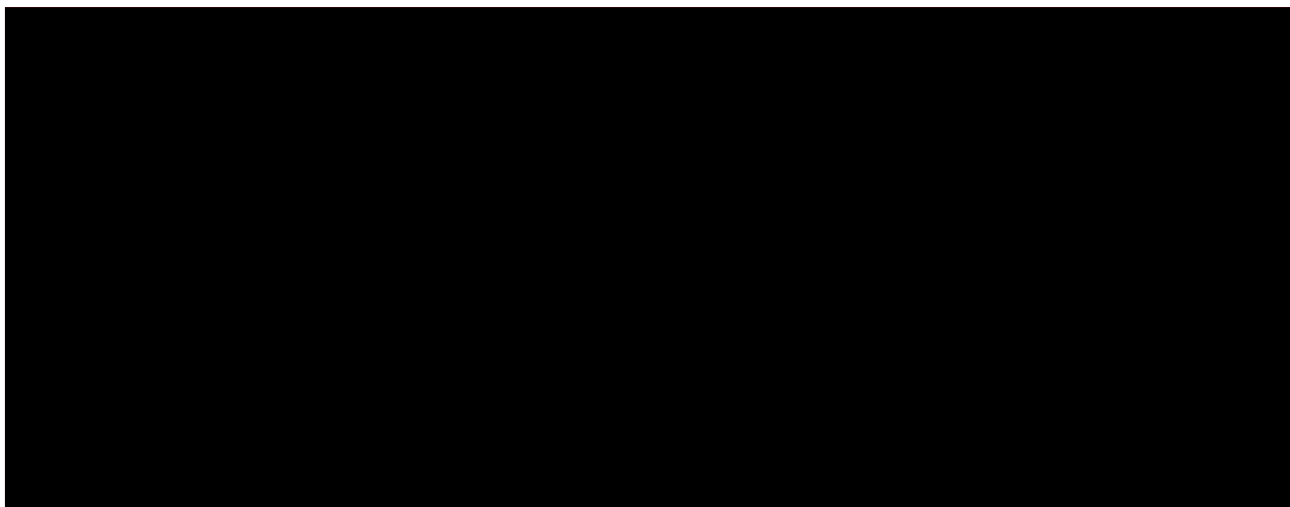
日時 平成26年10月16日(木)第2校時
指導者 

単元名 [文学的な文章] 日本の名作を読み味わう

教材名 「トロッコ」芥川龍之介(東京書籍 中学校1年)

1 単元について

(1) 生徒観



(2) 教材観

本単元は、「読書への招待」として、[読書3] 中学校1年生で学ぶ3回目の読書に関する学習である。[読書1][読書2]の指導事項は「読書と情報活用」であったが、[読書3]は読み味わうのに適する文学的な文章であるため「文章の解釈」及び「自分の考えの形成」を指導事項とした。また、中学校3年間における「日本の名作を読む」学習の第1段階に位置付くことより、言語活動を、視点に沿って文章を読み、その上で主人公に思いを寄せる内容とした。

「トロッコ」は、芥川龍之介の作品で、生徒と同年代の少年が主人公である。主人公の揺れ動く心情が、情景描写や語句・語彙を通して巧みに表現され、それらを手掛かりに主人公の心情を捉えたり、表現の効果を考えたりするのに適している。やや難しい語句もあるが、想像を巡らせたり友達と感想を交わしたりすることで、読む楽しさが味わえる作品である。

(3) 指導観

指導に当たっては、以下の2点をポイントとしたい。

○文学作品に触れることで読書の楽しさを味わわせ、今後の読書生活へとつながる授業

今回は、視点に沿って文学作品を読んだり、主人公に思いを寄せて読んだりすることで、読書の楽しさを味わわせ、今後の読書生活につなげることをねらう。場面ごとに切り取って読むのではなく、読む視点を「五感で読む」と「語句・語彙で読む」と設定し、切り口を変えて山場を繰り返し読む。また、山場に至る伏線、時を隔てての構成にも着目し、作品を味わわせる。情景描写や語句・語彙の中に込められた主人公の気持ちを丁寧に読み、主人公にどんな言葉をかけるかを考えさせることで、文学作品を読む楽しさを味わわせ、今後の読書生活へとつなげていきたい。

○小中の系統性を意識した授業

学習内容を説明する際に、既習の文学的な文章を用いて説明することで生徒の理解を助けることをねらう。また、生徒自身が文学的な文章における小中の学びの系統性を感じながら学習することで、理解が深まることを期待する。

今回は、小学校での以下の学習材(全て東京書籍)を用いる。

説明したい内容	小学校の学習材	学年
伏線(しかけ)	ゆうすげ村の小さな旅館	小3上
意味段落分け(場面分け)	手ぶくろを買いに	小3下
五感で味わう表現	ごんぎつね	小4下

2 単元の目標

- (1) 主人公の心情について自分の考えをまとめることができる。
- (2) 文学的な文章を視点に沿って読むことができる。
- (3) 文学作品を読む楽しさを味わい、今後の読書生活に興味をもつ。

3 単元の言語活動

名作を読む～あなたは主人公にどんな言葉をかけますか～

〔言語活動〕 視点に沿って文章を読み、主人公に思いを寄せる。

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度 〔関・意・態〕	読む能力 〔読〕	書く能力 〔書〕	言語についての 知識・理解・技能 〔伝国〕
①文学的な文章を読み、主人公に思いを寄せようとしている。	①文章の構成、表現の特徴について、自分の考えをもっている。〔読むこと(1)エ〕 ②登場人物や情景の描写に注意して読み、内容の理解に役立てている。 〔読むこと(1)ウ〕	①伝えたい内容について、自分の考えをまとめて書いている。 〔書くこと(1)ウ〕	①多様な語句について理解を深め、文章の中の語彙について関心をもって読んでいる。 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(ウ)〕

5 指導と評価の計画(全4時間)

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価の方法
一	1	1 文学的な文章の学習を振り返る。 2 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">名作を読む ～あなたは主人公にどんな言葉をかけますか～</div> 3 第一次感想をもつ。	・小学校で学習した文学的な文章の学習内容を想起させることで、今回の学習とのつながりを確認させる。 ・芥川龍之介について、また芥川龍之介の作品について紹介し、学習課題に興味関心をもたせる。 ・表現から心情を読み取って学習を進めていくことを押さえる。 ・「家に着いた良平にどんな言葉をかけるか」という視点で第一次感想を	〔関・意・態①〕 【学習計画表】 【学プ(第一次感想)】

			書かせる。	
二	2	4 あらすじを確認しながら、 意味段落に分ける。 □～□ 段落 ・「冒険」の伏線に気付く。 ・道のり地図を作成する。 5 名作を読む その1 ー五感で読むー □ □ □ 段落 ・表現の工夫を見つける。	・□ 段落が、思い出の回想の形式であることに気付かせる。また、語り手が誰であるかに着目させ、語りの構造についても考えさせる。 ・「冒険」の伏線に付き、通ったときに見えたものを道のり地図に表すことで、「冒険」のあらましを捉える。 ・「五感で読む」という視点を与えて、良平の心情の変化を読ませる。また、道のり地図に書き込み、良平の心情の変化を再確認させる。	〔読①②〕 【意見交流の様子】 【学プ(道のり地図)】 〔読①②〕 【学プ(本文)】 【意見交流の様子】 【学プ(道のり地図)】
	3 本 時	6 名作を読む その2 ー語句・語彙で読むー □ □ □ □ 段落 ・「冷淡」 「あっけにとられる」 「とってつけたよう」 ・「泣く」	・語句・語彙に着目し、良平の増していく不安を読み取らせる。また、良平と土工のセリフをどのように読むかを考えさせることを通して文中での語句の意味を考えた上で、良平の心情の変化を確認させる。 ・「泣」に着目して読み、六段落で良平が泣いた理由を考えさせ、道のり地図に良平の「冒険」のゴールを記入させる。	〔読②〕〔伝国①〕 【学プ(本文)】 【学プ(役割読み)】 【意見交換の様子】
三	4	7 第二次感想をもつ。 8 芥川龍之介の他の作品を味見読書する。	・「ゴールした良平にどんな言葉をかけるか」という視点で第二次感想を書かせることで自分の学びを確認させる。 ・芥川龍之介の他の作品の一部分を読ませ、じっくり読んでみたい作品を挙げさせることで、今後の読書への誘いとする。	〔関・意・態①〕 【学プ(第二次感想)】 【芥川龍之介の他の作品】

*評価の方法の記入の略 【学習プリント】→【学プ】 【意見交換の様子】→【意見交換】

6 TTの役割分担

今回は、協同方式のチームティーチングで授業を行う。それぞれの役割分担を次のように決めて指導にあたる。

T 1 : 【黒板を使用】	本単元の学習内容を主になって進める。
T 2 : 【電子黒板を使用】	学習用語を小学校の教材を例に挙げて説明する。 難語句を資料をもとに説明する。 学習を進める上でのヒントとなるような質問をする。

7 指導計画(1 / 4時)

(1) 目標

・小学校での既習学習内容を踏まえて、本教材における学習の見通しをもつことができる。

(2) 展開

	学習活動	形態	教師の働きかけと評価	
			T 1 : 原田	T 2 : 藤瀬
導入	1 文学的な文章におけるこれまでの学習内容を確認し、これからの学習内容の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 〔単元目標〕 名作を読む ～あなたは主人公にどんな言葉をかけますか～ </div>	齊	○名作を読み味わう学習を進めていくことを押さえる。	○小学校で学習した名作に関する学習内容を想起させることで今回の学習への準備とし、これからの学習内容の見通しをもたせる。 (今回取り扱う小学校で学習した文章は事前に配布しておく、予習として読ませておく。)
芥川龍之介とその作品について知ろう				
展開	2 本学習材について知る。 ・題名に着目する。	齊	○芥川龍之介及び彼の生涯における本作品の位置づけを知らせ、単元目標に興味を持たせる。	○芥川龍之介の他の作品について紹介する。
	3 通読する。 ・内容を大まかにつかむ。	個 齊	○場所、季節、登場人物をつかみながら通読するよう促す。 ○第一次感想の視点も示しておく。 ○場所、季節、登場人物を確認する。	○題名の「トロッコ」など、読み取りに必要な難語句について映像等を用いて説明することで、通読の理解を助ける。
まとめ	4 第一次感想をもつ。	個	○視点を与えて第一次感想を書かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 〔視点〕 家に着いた良平にどんな言葉をかけますか。 </div>	
	5 次時の見通しをもつ。	齊	○意味段落に分けることを伝える。(意味段落の箇所は示し、なぜそこで分かれるのか理由を考えてくるよう、伝える。)	○意味段落とは何かについて説明する。また、意味段落分けのヒントを小学校教材を使って与える。

7 指導計画(2 / 4時)

(1) 目標

・文章中の工夫された表現と主人公の心情を重ねて読むことができる。

(2) 展開

	学習活動	形態	教師の働きかけと評価	
			T 1 : 原田	T 2 : 藤瀬
導入	1 前時の学習内容を振り返り本時の目標を知る。	斉	○前時の第一次感想の中から、これからの学習のヒントになるようなものを読む。 ○学習計画表と黒板を用いて、学習の流れを確認させる。	○T 1 が読む感想を電子黒板に写す。
名作を読む その1 -五感で読む-				
展開	2 あらすじを確認しながら、意味段落に分ける。 □～□ 段落	斉	○段落の最初の一文を音読させ、意味段落分けの意図を考えるよう促す。	○段落の最初の一文を、生徒と共に音読する。
	3 語りの構造をつかむ。 <u>語り手は誰か</u> ・主人公は何と表現されているか。 ・語り手が内面を語るのは、良平の部分か、彼の部分か。 ・情景は誰の目から見たものか。	G	○□ 段落から、大人になった良平の今と、作品が思い出の回想の形式であることを読み取らせる。 ○T 2 の質問に答える形で生徒の思考を助け、語りの構造について考えさせる。	○T 1 に質問する形で生徒の理解を助ける。
	4 道のり地図を作成する。 ・「冒険」の伏線に気付く。	斉	○通ったときに見えたものと「冒険」が始まる前の部分からしかけとなる伏線を見つけ、道のり地図に記入させ、作品のおもしろさを感じさせる。	○「伏線」の説明をする。小学校の教材を用いて説明し、理解を助ける。 ○「伏線」に気づく際のヒントとなるような質問をする。
	5 名作を読む その1 -五感で読む- □ □ □ 段落	個	○五感で味わえる表現に着目させ、良平の心情を重ねて読ませる。また、喜びと不安を表す表現や情景の明暗を二色で色分けさせながら良平の心情の変化をつかませる。	○五感について説明する。
(評価規準) 五感で味わえる表現に着目し良平の心情を重ねて読んでいる A : 心情を情景描写を用いて表現する効果を理解している Cと判断される生徒への支援 : 五感で感じられることを基に気持ちを考えさせる				
まとめ	6 次時の見通しをもつ。	斉	○語句・語彙に着目して読むことを伝える。	○「冷淡」「あつけにとられる」「取ってつけたような」の意味を確認する。

7 指導計画(3/4時) 本時

(1) 目標

	<p>・語句に着目して読み，良平にとっての本当のゴールを考える。</p> <p>五 六 段落</p> <p>泣く</p> <p>・良平は六段落でなぜ泣いたのか。</p> <p>・「……」に続く良平の心の声を考えよう。</p>	<p>斉</p> <p>個</p> <p>G</p> <p>斉</p>	<p>をしているグループを見つけ，全体に紹介する。</p> <p>○「泣く」という語句に着目させ，生徒と共に「泣く」から始まる文を音読する。</p> <p>○六段落で良平が泣いた理由を考えさせる。</p> <p>○本文と道のり地図を用いて，「冒険」のスタート地点には戻っていることを確認し，五段落では泣かず，スタート地点を通り過ぎた六段落で初めて泣いた理由を考えさせる際のヒントとする。</p> <p>○道のり地図に良平の「冒険」の本当の意味でのゴールを記入させることで，良平の心情に迫らせる。</p> <p>○泣き続ける良平の心の声を考えさせる。</p>	<p>をしているグループを見つけ，T1に知らせる。</p> <p>○音読後，良平が泣いたか，泣いていないかを尋ねることで，T1の次の発問へつなげる。</p> <p>○「冒険」のスタートはどこだったのかをT1に質問する形で生徒の思考を助ける。</p> <p>○道のり地図に記入できているかを確認する。</p> <p>○Cの生徒に個別アドバイスをする。</p>
まとめ	3 次時の見通しをもつ。	斉	○「ゴールした良平にどんな言葉をかけるか」を考えていくことを伝える。	

(評価規準)

良平の心の声を、理由も考えて書くことができる

A：学んだ語句・語彙を根拠として良平の心情を考え、心の声を書いている

Cと判断される生徒への支援：泣き続ける良平の気持ちを考えさせる

7 指導計画(4/4時)

(1) 目標

・これまで学習したことを踏まえ、主人公への思いをまとめることができる。

(2) 展開

	学習活動	形態	教師の働きかけと評価	
			T 1 : 原田	T 2 : 藤瀬
導入	1 前時の学習内容を振り返り本時の目標を知る。	斉	○道のり地図を使って、良平にとっての本当のゴールはどこだったか、学習内容を振り返る。 ○学習計画表と黒板を用いて、学習の流れを確認させる。	
主人公に思いを寄せて読む				
展開	2 第二次感想をもつ。	個	○「ゴールした良平にどんな言葉をかけるか」という視点で第二次感想を書かせることで、自分の学びを確認させる。	○Cの生徒に個別アドバイスを する。
	3 芥川龍之介の他の作品を味見読書する。	斉 個	○クラス内で第一次感想と第二次感想を読み合って交流させる。 ○学びが感じられる感想を紹介する。 ○芥川龍之介の他の作品の一部分を読ませ、じっくり読んでみたい作品を挙げさせることで、今後の読書への誘いと する。	○学びが感じられる感想を書いているものをT 1に知らせる。 ○T 1が読む感想を電子黒板に写す。 ○「味見読書」について説明する。 ○漢字が読めない生徒、言葉の意味が分からない生徒の質問に答える。
まとめ	4 読んでみたい作品を発表する。	斉	○興味をもった作品を何人かに聞き、発表させることで、読書への関心を広げる。	○映像を用いて、芥川龍之介の他の作品を紹介し、興味をもたせる。